

令和２年度千葉大学環境健康フィールド科学センター履修証明プログラム

「多様な農福連携に貢献できる人材育成プログラム」

(入門コース)第２期生 募集要項

「多様な農福連携に貢献できる人材育成プログラム」は、現在オールジャパンで展開されている農業と福祉双方の課題解決を図る取組みとしての農福連携に、当センターがこれまで取り組んできた「環境・健康・食」に関する教育研究活動の成果を加えた“多様な”農福連携活動を企画・運営できる人材を持続的に育成するシステムを構築することを目的としたプログラムです。

令和２年度は入門コースのプログラム受講生（第２期生）を下記の要領で募集します。

1. 概要

本プログラムは、多様な農福連携プログラムを企画・運営するための基礎的な知識・実践能力の獲得を目指す講義・演習・現場学習を組み合わせたカリキュラムになっており、農福連携の基礎を学びつつ、様々な視点を提供することで、その先の実践を見据えた内容になっています。「障がい者支援」×「高齢者支援」×「都市農業」×「QOL 向上」をテーマに、①人のこころや体の多様性についての理解力を得るための「福祉」（６コース）、②人の動作認識、作業の難易度や負荷を理解するための「人間工学」（３コース）、③植物栽培の基礎知識や技術を身に付けるための「植物」（３コース）、④経営学の基礎を習得するための「経営」（１コース）及び⑤農福連携の実践の場の見学・事例紹介を行う「見学・演習」（１コース）から成る計 14 コース合計 60 時間のプログラムです。（対面とオンラインの併用を予定しています。）

プログラム修了後は障がい者支援、高齢者支援、作業安全、植物・栽培学及び経営学に関する基本的リテラシーを備え、将来多様な局面において、自ら対象に合わせた農福連携活動のマネジメントを行える基礎知識を身に付けることを期待しています。また、各講義・演習を通じて、分析評価能力、課題解決能力、コミュニケーション能力、パートナーシップ構築能力の基本を身に付けることができます。

2. 応募資格

原則として以下の要件を満たす方を想定しています。

福祉関連施設、医療機関、教育機関、農業生産法人などに勤務もしくは勤務経験がある、又は農福連携や SDGs、地方創生に関心のある方

※オンラインのみでの参加も可能です。応募の際にその旨お申し出ください。

3. 募集定員

10 名程度

応募書類を選考の上、令和２年 11 月 14 日（土）以降順次選考結果を連絡します。

4. 応募方法

(1) 応募書類

「令和2年度多様な農福連携プログラムに貢献できる人材育成プログラム」応募用紙

※応募書類は、千葉大学環境健康フィールド科学センターウェブサイトよりダウンロードすることができます。

URL : <http://www.fc.chiba-u.jp/rishuushoumei/2020boshu.pdf>

(2) 応募期間

令和2年10月5日（月）～令和2年11月10日（火）（必着）

(3) 書類提出先

応募書類を同封の上、下記宛先に「千葉大学環境健康フィールド科学センター履修証明プログラム応募書類 在中」と朱書きし、簡易書留にて郵送願います。

〒277-0882 柏市柏の葉 6-2-1

千葉大学環境健康フィールド科学センター（柏の葉地区事務課）総務係 宛

※応募にあたってお知らせいただいた氏名、住所その他の個人情報については、本学において、履修生の管理業務、本プログラムに関する情報提供等、これらに付随する業務を行うためのみに使用します。また、取得した個人情報は適切に管理し、使用目的以外には使用しません。

5. 修了の要件

履修証明プログラムとして設定された14コース（計60時間）すべてにおいて、それぞれの修了要件を満たすこと。本プログラムを履修し全コースを修了した場合、履修証明書を授与します。なお、単位の授与はありません。

※修了された方は、より専門性が高く実践を意識した上位コース（今後開講予定）の履修を推奨いたします。

6. 受講料及びその他費用について

(1) 受講料 60,000円

※受講決定通知後、令和2年12月15日（火）までに振り込み願います。なお支払われた受講料は、原則返金いたしません。プログラムを途中で辞退された場合でも同様です。

(2) その他

本プログラムで実施する対面授業・施設見学等に参加する交通費・施設見学科・宿泊費等は自己負担となります。

対面授業は、原則千葉大学柏の葉キャンパスで実施することを予定しています。

7. 今後の日程について

(1) 応募書類締切	令和2年11月10日（火）必着
(2) 選考結果通知（振り込み案内の送付を含む）	令和2年11月14日（土）以降
(3) 受講料の支払い（60,000円）	令和2年12月15日（火）まで
(4) 対面／オンライン授業期間	令和2年11月21日（土）～令和3年2月27日
※初日に開講式、最終日に修了式を行います。（土）	

(5) 施設見学

令和2年11月21日(土)～令和3年2月27日
(土)の間に実施します。

(6) 履修証明書授与

所定の手続きを経た後、郵送します。

8. 問い合わせ先

千葉大学環境健康フィールド科学センター（柏の葉地区事務課）総務係

〒277-0882 柏市柏の葉 6-2-1

TEL : 04-7137-8006 Mail : zao8006@office.chiba-u.jp



履修証明プログラムの構成・シラバス・日程表

●多様な農福連携に貢献できる人材育成プログラム（入門コース）

（１）構成

	講座名等（案）				
	コース名	分類	講義形態	時間	講義担当（ ）内は所属 学外講師の演習にはセンター教員がコーディネーターとして参加
入 門 コース	○農福連携の取り組みの現状と課題	福祉	講義 演習	3	吉田行郷（農水省・農林政策研究所次長）
	○農福連携取組事例紹介	福祉	講義 演習	3	須江淳起（タキイ種苗ティエス植物研究所）
	○障がい者福祉学	福祉	講義 演習	3	刎田文記（スタートライン）
	○高齢者看護学	福祉	講義 演習	3	正木治恵他（千葉大学看護学研究科）
	○ボランティア社会学	福祉	講義 演習	3	矢尾板俊平他（淑徳大学）
	○園芸福祉学	福祉	講義 演習	3	野田勝二（千葉大学環境健康 FSC）
	○コミュニケーションとコントロール基礎	人間工学	講義 演習	3	栗本育三郎（木更津高専・日本福祉工学会）
	○作業療法概論	人間工学	講義 演習	3	豊田正博（兵庫県立大学）
	○リハビリテーション概論	人間工学	講義 演習	3	倉林 準（杏林大学）
	○植物学基礎	植物	講義 演習	3	渡辺 均（千葉大学環境健康 FSC）
	○栽培学基礎	植物	講義 演習	3	小原均・塚越寛他（千葉大学環境健康 FSC）
	○植物セラピー学基礎	植物	講義 演習	3	池井晴美（千葉大学環境健康 FSC）
	○経営・ビジネス基礎	経営	講義 演習	3	小林寛利（VEGIMO GROUP）
	○農福連携関連施設現場見学・演習 千葉大学栽培施設 スタートライン、プラネット ワークビジネス農園 等 （見学・演習）		見学 演習	2 1	高垣美智子・小原均・塚越寛・渡辺均他

※講義や見学は受講生の希望により「対面双方向」・「オンライン双方向」・「オンデマンド」のいずれか又は併用で行う。

開講初日に開講式、最終日に受講生によるプレゼンテーション、修了式を実施する。

(2) コースの概要 (各3時間)

1) 入門コース

農福連携の取り組みの現状と課題	
キーワード	農業と福祉の連携、栽培技術、安全性、経済性
概 要	現状の農福連携の仕組みを解説する。 課題を学び、解決策の検討を行う。
開 講 日	令和2年11月21日 9時～12時
担 当	吉田行郷（農水省・農林政策研究所次長）
分 類	福祉
到達目標	農福連携事業での現状と課題を理解する。
構 成	対面授業2時間、演習1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

農福連携取組事例紹介	
キーワード	B型支援施設、栽培管理
概 要	関西を中心に幾つかの支援施設、法人での農福連携の取組を紹介する。
開 講 日	令和2年11月28日 13時～16時
担 当	須江淳起（タキイ種苗ティエス植物研究所）
分 類	福祉
到達目標	福祉施設の取組の現状と課題を理解する。
構 成	対面授業2時間、演習1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

障がい者福祉学	
キーワード	障がいの定義、障がい者福祉の理念、障がい者福祉の体系
概 要	障がい者の福祉と権利擁護の方法論を解説する。 障がい者福祉に関わる法律について学ぶ。 障がい者福祉の理念、原則、仕組みについて解説する。
開 講 日	令和3年1月23日 9時～12時
担 当	刎田文記（スタートライン）
分 類	福祉
到達目標	障がい者福祉の仕組みと現状を理解する。
構 成	対面授業2時間、演習1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	午前講義、午後見学等

高齢者看護学	
キーワード	超高齢社会、健康、ケア、保健医療

概 要	高齢者の健康生活とその支援について解説する。 健康の保持および増進、疾病の予防などの人の健康に関わる分野を総合的に学習する。
開 講 日	令和2年12月19日 9時～12時
担 当	正木治恵他（千葉大学看護学研究科）
分 類	福祉
到達目標	看護学・保健学の基礎を理解する。
構 成	対面授業2時間、演習1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

ボランティア社会学	
キーワード	社会福祉、地域連携、社会貢献
概 要	ボランティアとは何か。また、その社会的な役割と意義、実例を挙げて解説する。
開 講 日	令和3年2月20日 9時～12時
担 当	矢尾板俊平他（淑徳大学）
分 類	福祉
到達目標	ボランティアの意義と役割を理解する。
構 成	対面授業2時間、演習1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

園芸福祉学	
キーワード	病院緑化、園芸療法、セラピー
概 要	植物栽培が人へ与える多様な影響や効果について実例を挙げて解説する。
開 講 日	令和3年1月30日 9時～12時
担 当	野田勝二（千葉大学環境健康 FSC）
分 類	福祉
到達目標	園芸作業が人に与える影響について、その基礎を理解する。
構 成	対面授業2時間、演習1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

コミュニケーションとコントロール基礎	
キーワード	環境、コミュニケーション、情報、計算機、コントロール、植物工場
概 要	環境、動物、植物、人、コミュニケーション、情報、計算機、コントロールについて、最先端の植物工場の環境制御までを統合的に解説する。
開 講 日	令和3年2月6日 13時～16時
担 当	栗本育三郎（木更津高専・日本福祉工学会）
分 類	人間工学
到達目標	システム情報学の基礎を理解する。

構 成	対面授業 2 時間、演習 1 時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

作業療法概論	
キーワード	栽培管理、作業難易度
概 要	農業の栽培管理の作業別に、難易度を見える化し、農福連携の取組に活用する方法を紹介する。
開 講 日	令和 3 年 2 月 2 0 日 1 3 時～1 6 時
担 当	豊田正博（兵庫県立大学）
分 類	人間工学
到達目標	栽培管理における作業の組み立ての基礎を理解する。
構 成	対面授業 2 時間、演習 1 時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

リハビリテーション概論	
キーワード	身体障害の分類と実際、可能な ADL の特徴
概 要	様々な身体障害に対する問題点と簡易な分類分け、そのリハビリテーションの実際と、可能な ADL の特徴とともに、農福連携における配慮点に関して解説する。
開 講 日	令和 2 年 1 2 月 1 9 日 1 3 時～1 6 時
担 当	倉林 準（杏林大学）
分 類	人間工学
到達目標	リハビリテーションにおける身体障害の基礎を理解する。
構 成	対面授業 2 時間、演習 1 時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

植物学基礎	
キーワード	分類、構造、成長、効果
概 要	植物学的な側面から、植物の基本的な名称や構造を解説する。 植物の機能性の基礎を学ぶ。
開 講 日	令和 3 年 1 月 9 日 9 時～1 2 時
担 当	渡辺均（千葉大学環境健康 FSC）
分 類	植物
到達目標	植物の構造、形の基礎を理解する。 植物の機能性の現状と課題を説明することができる。
構 成	対面授業 2 時間、演習 1 時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

栽培学基礎	
キーワード	播種、挿し木、管理作業、施肥
概 要	作物栽培の基礎を解説する。栽培作業の基礎を学ぶ。養液栽培の作業性を体感する。
開 講 日	令和2年11月28日 9時～12時
担 当	小原均・塚越覚（千葉大学環境健康 FSC）
分 類	植物
到達目標	栽培学の基礎を理解する。
構 成	対面授業2時間、演習1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

植物セラピー学基礎	
キーワード	リラックス効果、生理指標、快適性評価
概 要	植物由来の自然がもたらすリラックス効果について、最新の研究成果を踏まえて解説する。さらに、近赤外分光法による脳前頭前野活動計測等のデモ実験を行うことにより、生理的快適性評価手法の基礎を学ぶ。
開 講 日	令和3年1月30日 13時～16時
担 当	池井晴美（千葉大学環境健康 FSC）
分 類	植物
到達目標	植物セラピー学の基礎を理解する。
構 成	対面授業2時間、演習（デモ実験）1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

経営・ビジネス基礎	
キーワード	経営概論
概 要	一般的な経営学の基礎に加え、農業経営および福祉施設の経営について解説する
開 講 日	令和3年2月6日 9時～12時
担 当	小林寛利（VEGIMO GROUP）
分 類	経営
到達目標	経営・ビジネス学の基礎を理解する。 農福連携事業での現状と課題を説明することができる。
構 成	対面授業2時間、演習1時間
修了要件	対面授業、演習に参加すること
特記事項	

現場見学・演習	
キーワード	福祉施設、農場、その他
概 要	様々な形の農福連携の現場を見学し、取り組みの工夫、課題、将来展望などを

	学ぶ。
開 講 日	令和2年11月21日 13時～16時、令和2年12月5日、12日 終日、令和3年1月9日、23日 13時～16時 ※その他調整中
担 当	高垣美智子・小原均・渡辺均・塚越覚 他（千葉大学環境健康 FSC）
分 類	見学・講義・演習
到達目標	農福連携事業の現状と課題を理解することができる。 事業の改善を提案できる。
構 成	プラネットでの屋内緑化に関わる講義・実習 スタートライン他、数カ所の見学（一部オンライン見学） 環境健康フィールド科学センターでの実習 その他調整中
修了要件	見学、意見交換会に参加すること
特記事項	交通費は実費負担となる場合があります。 コロナウイルス感染拡大対応で見学不可の場合、ビデオと質疑応答で対応する 可能性があります。

（３）開講日程表

土曜日開講 1日6時間（9:00～12:00、13:00～16:00）

月日	午前（9:00-12:00）	午後（13:00-16:00）	備考
11月21日	農福連携の取り組みの現状と課題 吉田行郷（農水省・農林政策研究 所次長）	センター圃場見学・説明 小原均他（千葉大学）	開講式
11月28日	栽培学基礎 小原均・塚越覚（千葉大学）	農福連携取組事例紹介 須江淳起（タキイ種苗ティエス植物 研究所）	
12月5日	見学・講義・演習 大林修一（プラネット）		マイクロバス利用予定
12月12日	オンライン見学・演習実習		マイクロバス利用予定
12月19日	高齢者看護学 正木治恵（千葉大学）	リハビリテーション概論 倉林準（杏林大学）	
1月9日	植物学基礎 渡辺均（千葉大学）	見学・演習	
1月23日	障がい者福祉学 刎田文記（スタートライン）	見学・演習 （スタートライン）	マイクロバス利用予定
1月30日	園芸福祉学 野田勝二（千葉大学）	植物セラピー学基礎 池井晴美（千葉大学）	
2月6日	経営・ビジネス基礎 小林寛利(VEGIMO GROUP)	コミュニケーションとコントロール基礎 栗本育三郎（木更津高専・日本 福祉工学会）	
2月20日	ボランティア社会学 矢尾板俊平（淑徳大学）	作業療法概論 豊田正博（兵庫県立大学）	
2月27日	—	振り返り・プレゼン・グループワーク	修了式